

十二湖の魅力どう伝える？

深 浦

弘前大学と深浦町の十二湖で活動するガイド団体十二湖森の会は20日、同町の白神十二湖エコ・ミュージアムで初の試みとして「研究成果とガイドの知恵を共有する交流会」を開いた。より多くの人に十二湖の魅力が多角的に伝えるため、活発な議論を交わした。

弘大農学生命科学部の郷青穎郷 青穎講師(応用地形学)は白神山地在日本有数の地滑り地帯

弘大とガイド団体、初の交流会

であると紹介。「地域資源として環境・防災教育への利活用価値が高い。伝えるノウハウを皆さんに教えていただきたい」と、参加したガイドたち約10人に呼びかけた。

同学部4年の根城雅子さんは、十二湖の地形の形成過程に関する地学的な知識を盛り込んだ漫画を制作し環境教育の可能性を探る取り組みを伝えた。

意見交換ではガイド側から「昨年大雨で崩れ、通行止めになったコースもある。新たなコースは考えられないか」「ガイド対象は一定では

ない。漫画は高齢者向けと学童向けなど2種類ぐらいあれば良いと思う」などの発言があった。

ガイド歴20年以上のベテランで、今は補欠という菊池伸

吉さん(87)は「ガイドの研修は受けてきたが、新たな視点に気付かされた。十二湖に関する漫画の制作も非常にありがたい」と話していた。

(三國谷啓)



「十二湖森の会」ガイドの発言に耳を傾ける弘大の郷講師(右端)と根城さん(右から2人目)

この画像は、当該ページに限って”東奥日報社”が利用を許諾したものです。無断転載はできません。